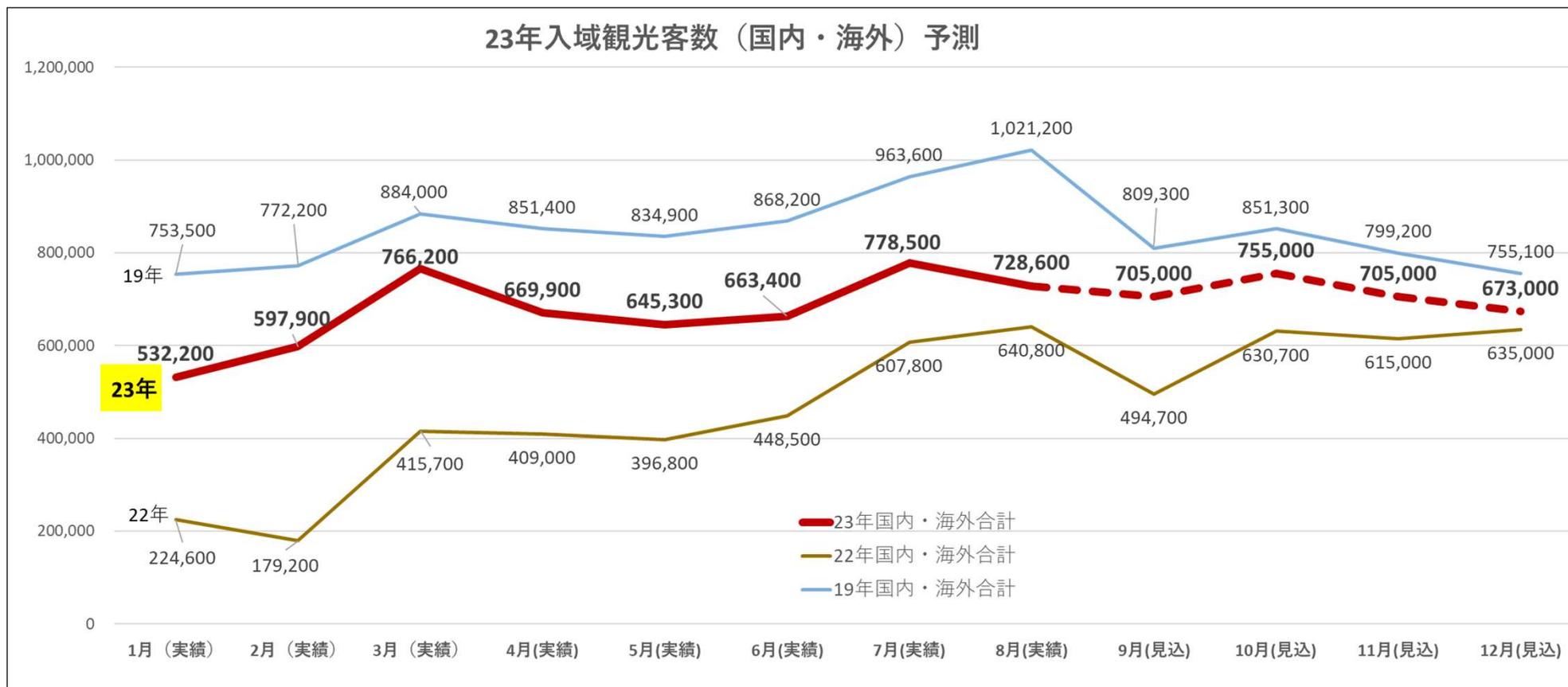


# 2023年（2023年1月～2023年12月 暦年）入域観光客数見通しについて

2023年10月4日  
OCVB

	1月(実績)	2月(実績)	3月(実績)	4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(実績)	8月(実績)	9月(見込)	10月(見込)	11月(見込)	12月(見込)	2023年暦年合計
23年国内(空路)	485,900	553,000	699,800	601,700	564,200	577,300	654,900	628,700	590,000	630,000	600,000	570,000	7,155,500
23年国内(海路)	1,500	1,500	2,200	1,400	11,100	8,400	8,700	3,500	5,000	5,000	2,000	4,200	54,500
<b>23年国内合計</b>	<b>487,400</b>	<b>554,500</b>	<b>702,000</b>	<b>603,100</b>	<b>575,300</b>	<b>585,700</b>	<b>663,600</b>	<b>632,200</b>	<b>595,000</b>	<b>635,000</b>	<b>602,000</b>	<b>574,200</b>	<b>7,210,000</b>
23年海外(空路)	44,800	43,400	51,100	60,300	63,400	68,100	80,000	71,600	80,000	80,000	80,000	83,000	805,700
23年海外(海路)	0	0	13,100	6,500	6,600	9,600	34,900	24,800	30,000	40,000	23,000	15,800	204,300
<b>23年海外合計</b>	<b>44,800</b>	<b>43,400</b>	<b>64,200</b>	<b>66,800</b>	<b>70,000</b>	<b>77,700</b>	<b>114,900</b>	<b>96,400</b>	<b>110,000</b>	<b>120,000</b>	<b>103,000</b>	<b>98,800</b>	<b>1,010,000</b>
<b>23年国内・海外合計</b>	<b>532,200</b>	<b>597,900</b>	<b>766,200</b>	<b>669,900</b>	<b>645,300</b>	<b>663,400</b>	<b>778,500</b>	<b>728,600</b>	<b>705,000</b>	<b>755,000</b>	<b>705,000</b>	<b>673,000</b>	<b>8,220,000</b>
22年対比(国内・海外)	237.0%	333.6%	184.3%	163.8%	162.6%	147.9%	128.1%	113.7%	142.5%	119.7%	114.6%	106.0%	144.3%
19年対比(国内・海外)	70.6%	77.4%	86.7%	78.7%	77.3%	76.4%	80.8%	71.3%	87.1%	88.7%	88.2%	89.1%	80.9%

## 23年入域観光客数(国内・海外) 予測



## 入域観光客数見通し(国内・海外)

**8,220,000人**

対22年比 144.3 % 対19年比 80.9%

(国内) **7,210,000人** 対19年比 99.7%(海外) **1,010,000人** 対19年比 34.5%

2023年(暦年)入域観光客数見通しについては、国内、海外合わせて**822万人(対22年度比 144.3%、対19年度比 80.9%)**となる見通し。

## 【国内】

入域観光客数については**721万人(対19年比 99.7%)**の見通し。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、前年までのような行動制限がなく、集客力の高い各種イベントが通常開催されていること、県内離島の人気も引き続き高いことから、旅行需要は引き続き好調に推移すると見込まれる。ホテル宿泊単価については、需要の伸びが顕著であるため、特に本島・離島のリゾートホテルはコロナ前19年を超える大きく超える水準で推移している。

## 【海外】

入域観光客数については**101万人(対19年比 34.5%)**の見通しで、空路の台北、韓国仁川、香港路線については予約が堅調に推移している。11月下旬にはシンガポール線も運航再開予定で、空路入域客数に関しては19年の5割程度の水準まで回復する見込み。

海路は、10月以降も引き続き台湾や中国(上海・厦門・香港)などから入港が予定されているが、入港回数についてはコロナ前の4割弱となっている。入域客数は19年の約2割弱の水準となる見通し。

令和5年10月4日（水）

## クルーズ市場の見通しおよび今後の取り組み

今年3月のクルーズ船の再開以降、沖縄へのクルーズは那覇を中心に回復基調にあり、那覇港管理組合が公表している寄港計画によりますと、本年3月から12月にかけて、台湾の基隆、香港などから合計94本のクルーズ船が那覇港へ寄港する見通しとなっています。また、2024年には、那覇発着のフライ&クルーズや、小型ラグジュアリー船による小規模離島を周遊するエクスペディション船の運航も予定されており、第6次沖縄県観光振興基本計画で掲げられている、「質の高いクルーズ観光の推進」に向けて着実な成果が出始めています。

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローは、沖縄県から戦略的クルーズ観光推進事業を受託しており、今後も引き続き、沖縄県と連携して、国内外クルーズ船社へのセールス活動、キーパーソンやメディア等の招聘事業を通して、クルーズ寄港地としての沖縄の認知度向上を図るほか、寄港地観光の充実・促進、地域の実情に応じた県内各港への誘致（分散化）を通じて、クルーズ観光による経済効果の拡大に向けて取り組んでまいります。同時に、持続可能なクルーズ受入環境を整備するため、県内各港湾および地域と連携した受入体制の整備・強化に取り組み、寄港船へのおもてなしや、国内外のクルーズ船社と県内港湾関係者とのパイプ役を担い、連携体制の強化を図ります。

### 【具体的な取り組み予定】

- クルーズ観光の理解促進に向けた県民、関係者への啓発
- クルーズ客や乗組員に対する寄港地でのマナー・ルールの啓発
- 「沖縄クルーズカンファレンス2023」の開催
- クルーズ船寄港による経済効果の拡大  
（県産食材の活用に向けた働きかけ、船内における体験アクティビティの提供等）
- 質の高いクルーズの誘致に向けた展示会（Sea Trade Asia Pacific 等）出展、セールス訪問等

### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE部 海外プロモーション課 担当：仲里・平山

TEL:098-859-6127 FAX:098-859-6221

Mail: [cruise@ocvb.or.jp](mailto:cruise@ocvb.or.jp)

令和5年10月4日（水）

## 沖縄修学旅行誘致に関する取り組みと今後の動き

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）は、沖縄県から「令和5年度教育旅行推進強化事業」を受託しており、沖縄への安定的な修学旅行需要の確保及び受入体制の強化を行っております。

新型コロナウイルスの影響で大幅に落ち込んだ修学旅行の実施についても、コロナ前の8割程度まで回復してまいりました。

この度、沖縄修学旅行実施校の先進事例として下記の取り組みがございますので紹介いたします。

### 1. 沖縄修学旅行実施校の先進事例

#### （1）姫路市立琴丘高等学校×株式会社沖縄県物産公社による沖縄物産展開催

令和4年に探究学習の一環として、沖縄修学旅行中に県内事業者インタビュー取材を行ったレポートを1冊の本にして出版した姫路市立琴丘高等学校と、株式会社沖縄県物産公社がタッグを組み、今年の沖縄修学旅行中にサンエー浦添西海岸 PARCO CITYにて沖縄物産展を開催いたします。修学旅行を通して見つけた沖縄のすばらしさを発信したいという思いから実現しました。

日時：令和5年10月20日（金）～10月29日（日）

※琴丘高等学校は24日（火）午前・25日（水）午後のみ参加予定

場所：サンエー浦添西海岸 PARCO CITY

#### （2）啓明学院高等学校による「ゆるキャラ」作成

啓明学院高等学校（東京）の2年生が令和5年6月に沖縄本島と八重山諸島での修学旅行を実施しました。事前学習で沖縄の文化などについて調べるワークシートに取り組み、調べた項目から修学旅行実施後に各生徒が「ゆるキャラ」を考案しました。作成されたゆるキャラはOCVB東京事務所のX（旧twitter）などで紹介いたしました。

<参考：令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）の修学旅行見込入れ込み数>

※9月5日時点、旅行社15社中7社からの回答により推計（OCVB調査）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
校数	116	283	162	22	4	39	315	360	268	79	90	58	1,796
人数	15,243	36,788	26,944	2,747	165	6,747	65,231	80,356	50,481	14,609	16,783	11,485	327,579

順調に回復傾向にある沖縄修学旅行ですが、一方で課題も残されている為、引き続き沖縄県や旅行会社、航空会社、学校関係者等と連携し、以下の取り組みを実施してまいります。

### 1. 沖縄修学旅行の課題

- ・ 修学旅行が集中する 10～12 月のバスドライバー、バスガイドが不足し、予約が取りづらい状況である。
- ・ 物価高騰に伴い航空運賃や宿泊代の料金が値上げ傾向にあり、現在の旅費予算では沖縄方面の手配が厳しくなっている。また、日数を短縮し 2 泊で修学旅行を実施する傾向もでてきている。
- ・ 2025 年に大阪万博が開催されることから、修学旅行先として大阪方面を選ぶ学校が増える可能性がある。

### 2. 誘致に向けた取り組み（上半期の取組み実績）

- ・ 「沖縄修学旅行相談会 in 東京」(8/24)
- ・ 修学旅行の調査研究機関との意見交換会
- ・ 旅行会社向けモニターツアー (9/26-27)

#### <参加者からの声・ご意見>

- ・ 民泊先やバス等の確保がしにくいいため、受入体制の拡充が必要である
- ・ 航空運賃や宿泊代が高騰しているため、教育旅行という学びの機会であることを再認識して安価に実施できるように価格見直しがあるとありがたい
- ・ 体験を通して学べるプログラムを求めている学校が増えており、現地ではできない体験が探究学習として求められている
- ・ 特に中学校は学校側が価格優先で行き先を決定する傾向があるため、費用を抑える工夫をする必要がある。

### 3. 今後の取り組み（予定）

- ・ バス不足の現状把握と改善策検討のため、バス会社および旅行会社と連携を図り、こまめな情報共有および協議の場を設ける。
- ・ 重点エリアでの修学旅行上限額および実施規定についての情報収集および分析を行い、上限額見直し要請の必要性を検討する。
- ・ 民泊の受入可能件数の確認と均質な受入環境提供のための研修等の実施を検討する。
- ・ 多様な学びの視点を反映させた沖縄修学旅行中のプログラムの充実化及び旅程のバリエーション化を図る。

#### 【お問い合わせ先】

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課

担当：屋宜

TEL: 098-859-9129 FAX: 098-859-6221

Mail: shuryo@ocvb.or.jp

令和5年10月4日（水）

## 貸し切り観光バスの運転手不足に関する取り組み状況

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）では10月から12月の貸し切り観光バス運転手不足について、1168台の手配ができていない状況だと確認できており（10月2日時点/関係者ヒアリングによる）、問題の解決に向けてこれまで下記の取り組みを実施してまいりました。

### 【OCVBでの取り組み】

- ・現状把握および課題確認のため、県内大手バス会社及びバス協会、旅行会社へのヒアリングを実施
- ・沖縄県バス協会および会員企業に対し、沖縄県が実施している活用可能な支援事業（観光人材マッチング支援事業、観光事業者受入体制再構築支援事業）の説明会および意見交換会を実施
- ・東京/大阪/名古屋で実施した MICE セミナー商談会で県外旅行会社・事業者に対し状況説明と早期予約確定の協力呼びかけを実施
- ・沖縄 MICE ネットワーク幹事会で MICE 関連事業者への情報共有と状況改善に向けた理解・協力依頼を実施

引き続き OCVB ではバス会社、旅行会社等関係者に対し、沖縄県の支援策の周知徹底および活用促進を図ると共に、関係者からの情報収集、連携を図りバス運転手不足の解消に向けて取り組んでまいります。

### 【今後の対応】

- ・状況改善に向け引き続き沖縄県およびバス会社等関係機関とのこまめな情報共有・連携を図る。
- ・2024年度は法改正によりバス運転手の時間外労働上限規制に伴い更なる運転手不足が懸念されることから、早期に次年度の予約状況及び稼働可能バス台数等を確認し、沖縄県、バス会社、旅行会社その他関係機関との密な連携を図り、課題解決に向けた合同会議の場を設定し協議を行う。
- ・旅行主催者および旅行会社に対し、バス予約の重複や手配漏れをなくすため、3か月ルールの再徹底呼びかけ等早期の旅行行程確定への理解・協力を呼びかける。

### 【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー  
国内事業部 受入推進課 担当：屋宜  
TEL：098-859-9129 FAX：098-859-6221  
Mail：shuryo@ocvb.or.jp